

- ・メンバーシップに、博士以上の学位を持つ研究者による一般会員、学生会員、研究者ではないが科学・技術に関心をもつ賛助会員など、いくつかの種類を設けるのが適切ではないか、という意見もある。
- ・ヤングアカデミーのようなものを作った方が良いという意見も。研究者であれば誰でも加入できるものと、選別された研究者だけ加入できるようなアカデミーと両方あると良い、という意見や、メンバーシップの種類で分けるという意見がある。なお、AAAS には、限られた研究者だけが「フェロー」になるという仕組みがあるようである。

総合科学技術会議との関係

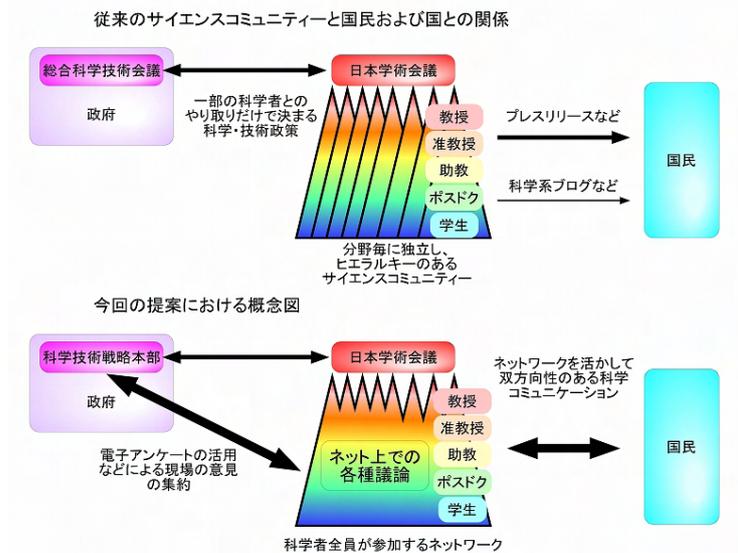
- ・総合科学技術会議（あるいは科学技術戦略本部）の下部組織として、大きなプロジェクトなどの各種案件が出てきた時にそれらについての議論・アンケート調査を行い、総合科学技術会議、各省庁、政府などに参考にってもらうような位置づけ、という案。
- ・日本学術会議・協力学術研究団体というものがあるが（各種学会はこの位置で日本学術会議にぶら下げている形式）、単に、これら団体の会員であれば加入できる（あるいは自動的に加入）というような組織でもよいのかもしれない。

具体的な実現法

- ・具体的には、国立情報研が運営する Researchmap (<http://researchmap.jp/>) のようなアンケート機能・投票機能を有したソーシャルネットワーキングサービスかそれと同等のものを改良したものを活用するという案がある。Researchmap のようなサイトでは、科研費データベースなどとリンクしており、研究者番号を持っている研究者であれば容易に登録して、議論やアンケートを行うことができる。このような設置・運営コストも安価でしかも高機能の新しい情報通信術を用いて、組織の基盤技術として使用する、というようなことが考えられる。総合科学技術会議や省庁から多くの研究者にたいして、十分な議論を経た上での意見聴取が容易にできるようになる。
- ・このようなサイトを通じて異分野の研究者間のコミュニケーションが容易になり、研究自体についても新たなイノベーションが可能になるというメリットもある。

その他の意見

- ・あまり大きなものでなくても、安価に構築できるネット上のバーチャルな組織で十分効果を発揮できる、という意見も。
- ・このような組織ができることによって、研究者コミュニティとして、政治家の方々や政府との交渉がしやすくなる。
- ・このネットワークに、マスコミ関係者や小中高校の教員なども参加できるようにしておき、質問を投げ込むことのできる窓口を設けて若手研究者も交えた双方向コミュニケーションを行うことができるようにすると良い。
- ・具体的な実現方法や、ネットでの実現を行うアプリケーションに何を採用するか、などについて、若手も含めた IT 技術に詳しい関係者からの意見もできるだけ聴取すべき。
- ・この組織のアンケートシステムを用いて、国会議員の選挙前に、各種の論点について各政党の科学・技術政策のマニフェストを出していただき、それについてのアンケートをとるなどすることによって、より研究関係者の意見が政策に反映されやすくなる可能性がある。



図：分野横断的な科学・技術研究者のネットワークのイメージ